

## 学生大使 実施報告書

氏名：早瀬ひな子

学部・学科（コース）・学年：地域教育文化学部・地域教育文化学科（文化創生コース）・1年

派遣先大学：ガジャマダ大学

派遣期間：2023/8/29～2023/9/13

### 1 日本語教室での活動内容

初心者の方にはひらがな表を使ってひらがなの書き方やカタカナを教えた。ガジャマダ大学の学生にもノートをとってもらいながら、ホワイトボードを使って書き順を教えながら一緒に書いていった。簡単な単語を書く時もあれば、漢字を教える時もあった。中級者には数字の教え方や曜日、簡単な挨拶や疑問文を教えた。私が言ったことをすぐにまねし、習得するのが早かった印象がある。覚えてもらうために、会話をしたり、今までの復習をしたりした。上級者とは一緒に昔話を読んだ。すべてひらがなだったため、インドネシアの方に読んでもらい、意味が難しいところや表現が古典的なところは英語で説明をした。また時にはインドネシアの方と英語で、日本とインドネシアの相違点や将来のことをお話しするときもあった。国は違えど、学生ならではの悩みは同じなのだと気づいた。

### 2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室で仲良くなった方に心理学部や工学部の建物に連れて行っていただいた。近くのカフェテリアで一緒にお昼を食べながら、お互いにどのようなことを勉強しているのかや、ガジャマダ大学のことを教えていただいた。また、レストランやカフェに行くたびにインドネシアの様々な料理を教えていただけて楽しかった。夜ご飯も仲良くなった現地の方に連絡を取り、バイクで街中の屋台やカフェに連れて行ってもらった。トグ・ジャカルタやマリオ・ボーロなど、様々な観光地を案内していただいた。昼間と夜では町の景色が全く異なり、夜の景色はとてもきれいだった。休日はサポーターの方とボロブドゥール遺跡やクラトンなどに行った。一つ一つ丁寧に説明していただき、日本とインドネシアの宗教の違いや言語の多様性を肌身で感じる事ができた。プランテーションでは、他の参加者の方と同じバスや宿泊施設に泊まり、様々な過ごし方があることを目の当たりにして、少しカルチャーショックを感じた。日本人は静かな人が多いように感じたが、インドネシアの方やベトナムの方は賑やかな人が多いように感じた。一日中、大音量の音楽が流れていたが、皆歌いながら盛り上がっていた。またトイレやシャワーが少し不便だったが、インドネシアの現実を知る良い機会になった。二日目にはその施設での暮らしに慣れている自分に少し驚いた。また、きれいなトイレや水があることがどんなにありがたく、生活に必要なことが分かった。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

日本語クラスでは、相手の生徒さんに合わせて柔軟な教え方ができたため、分かりやすい授業をするという目標を達成することができた。質問された時も丁寧にわかる範囲で教えることができた。また、私はガジャマダ大学の心理学部の施設に行ってみたかったため、自分で現地の方に案内をお願いして、連れて行っていただいた。自分から英語で案内をお願いすることに不安を感じていたが、インドネシアの方と英語でコミュニケーションをとることができた。現地の方と英語でコミュニケーションを取ることが目標だったため、常に自分から話しかけたり、質問することを心掛けた。現地の方は皆優しくかったため、私の言いたいことを

## 【学生大使 実施報告書】

汲んでくださった。現地で友達ができるか不安だったが、たくさん友達をつくることができ、とても嬉しく思っている。

### 4 プログラムに参加した感想

私はこのプログラムに参加する前、一度も海外に行ったことが無かったため、本当に自分が海外に行けるのかとても不安だった。しかし、行く前の集中講義などでも注意事項をたくさんお話していただき、一緒に参加する方々と相談することができたため、無事にインドネシアに到着し、帰国できたことがまず何よりうれしく思う。

インドネシアで様々な人と話をしたり、2週間生活してみて、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないことを知った。まず、日本は宗教をあまり意識しないため、ヒンドゥー教やクリスチャン、イスラム教が混在するインドネシアでは、常に意識させられることが多くて新鮮だった。女性でヒジャブをかぶっている方が、毎日違う色や柄で服と同じようにコーディネートしていることに気づき、ヒジャブがファッションの一部だということを知った。私たちが服でおしゃれするのと同じ感覚なのだと思う。言語の面では、車の中で現地の方々がインドネシア語やジャワ語など様々な言語でしゃべっていることを知って驚いた。日本では日本語だけで誰とでも話すことができる。また私自身、言語を学ぶこと自体に少し抵抗を感じるがあった。しかし、インドネシアの人々は日常的に何種類もの言語を使い分けていて単純にすごいなと思った。何種類もの言語を話す姿にあこがれた。私も日本語や英語だけでなく、他の言語も積極的に学び、あらゆる言語の人々と会話してみたいと思った。それから私は、このプログラムに参加する前はあまり自分の英語に自信がなかった。しかし、インドネシアの方とたくさん会話がしたいと思い、自分から話しかけると、相手も意図を汲んでくれたり、お互いに英語のネイティブではないため聞き返して理解しながら会話することができた。英語で会話することが楽しくなり、もっと自分の英語力を上げて、内容の濃い話がしたいと思った。一番心に残っているのは、2年間中国に留学していたインドネシアの方がおっしゃっていた、「英語が苦手でも、自分が相手の英語を理解できて、相手も自分の英語を理解できていればそれでいい」という言葉だ。「あなたはそれができていいるから大丈夫」と言ってもらえて少し安心した。しかし、自分の英語はまだまだ相手に伝わりにくいものだと感じたので、これからさらに英語を勉強したいと思った。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回初めて海外に行って感じたことは、今まで生きてきた世界がすべてではないということだ。もし私がこれから苦しい状況に陥ったとしても、それはそこだけの話で、世界はもっと広いのだと考えることができるだろう。視野を広げることができたのは本当によかったと思っている。日本だけでなく他の国に実際行ってみることは、これからの人生の糧になると感じた。これからはいろんな国に行ってみたい。そして様々な人とお話ができるように、より一層英語を勉強したい。また、自分の専門分野を極めてみたいと思った。ガジャマダ大学の学生と勉強のことや生活、将来のことについて話をしてみて、自分と同じような楽しみや不安、夢を持っていることを知った。その人たちが夢に向かって努力したり、日本に行きたいと思って日本語を勉強している姿を見て、自分もやる気もらった。私も、自分の新たな目標に向けて努力していきたいと思う。

【学生大使 実施報告書】



クラトン



ココナッツジュース



ムラピ山の近く



レレ ナマズ